

第4回尾張旭市交通問題対策協議会

1 開催日時

平成15年9月29日（月）

開会 午前10時

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎2階 201会議室

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

委員：大澤一夫、大矢英樹、荻原善夫、奥野昌明、苅谷勝、加藤桃代、
近藤重男、櫻井栄二、田中悦子、田中さゆり、寺田千珠子、
服部正勝、林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

4 議題等

- (1) 第3回目の議事の概要について
- (2) 名鉄バスの申し出に対する対応方策について
- (3) 公共交通移動実態調査の説明と意見交換について
- (4) 市全体の交通問題の検討について
- (5) 今後の協議会のスケジュールについて
- (6) 他市町自治体の事例視察について

5 会議の要旨

(1) 第3回目の議事の概要について

第3回の協議会会議概要の内容確認。インターネット等での会議概要公表の了承を得る。

(2) 名鉄バスの申し出に対する対応方策について

協議会において、名鉄バスの申し出に対する結論を出しました。

▲結論▲

- ①『旭団地～藤ヶ丘』路線の廃止について
→ 廃止やむなし。（廃止を前提に、市の交通対策を考える。）
- ②『森林公園～藤ヶ丘』路線の補助申請路線について
→ 公的補助（国や県の補助金）を実施し、路線の維持確保を図る。

▲要旨▲

- ①『旭団地～藤ヶ丘』路線の廃止により、補完的に「尾張旭向ヶ丘～名鉄バスセンター」路線が一部区間を走行する。ただし、旭団地、旭団地口のバス停がなくなる、補完する路線が藤ヶ丘へ行かない、等の影響がある。
この『旭団地～藤ヶ丘』路線の経費を市が負担して名鉄バスや他の事業者に運行させるという方法もあるが、費用対効果から考えると現実的でない。
よって廃止やむなしとし、その代替方策は市全体の公共交通を見据えて今後検討することとする。
- ②『森林公園～藤ヶ丘』路線については、“補助を受けず、廃止やむなし”、という選択も考えられるが、現段階では、名鉄は、国県補助を受ける事とし、存続を予定している。仮に補助が受けられず、廃止申し出に至ったとしても、平成17年3月末までは、（廃止申し出は1年前に行うものとされているため）運行継続されるので、その際に、市全体の公共交通を見据えて検討することとする。もし平均乗車密度が5人以下で、補助対象となくなった場合も、廃止までの期間に、検討することとする。

—以上のことで、協議会において了承しました。

【意見】

<国や県の補助金も「税金」ということを忘れずに>

- 今のところ、平均乗車密度が3.7人だが、補助対象になる見込みはあるのですか？
- 名鉄の提出するデータによりますが、3.7人が5人になるのは、実際かなり難しいと思われます。5人以上乗るような方策を考えなければ、撤退は免れません。
「皆でバスを利用しよう」という話ができるかどうかがかギですが、結局バスに乗らないと、だめだということです。それから、ぜひアナウンスしてほしいのが、「税金」を投資しているということ。バス路線を維持する補助金は、結局我々の税金なんだというのを忘れてはいけません。
- 例えば国県補助が受けられなかった場合、その額を市が負担するのと、その路線と同様のものを市が走らせるのと、どちらが得ですか？
- 補助額は現状の試算では、約160万円になります。新しい業者などを引っ張ってくるなどして、同じ路線を走らせるとすると、とても160万円ぐらいではできません。

(3) 公共交通移動実態調査の説明と意見交換について

主な調査項目

- ・バス交通調査（市内を走るバスの運行状況や営業状況を調査します。）
- ・タクシー交通調査（市内の主な営業タクシーの運行状況を調査します。また、高齢者タクシー助成チケットの利用状況を調査します。）
- ・公共交通利用対象者調査（市民 3000 人対象にアンケート調査を実施します。また、人口分布やパーソントリップ、施設利用状況等データを集め、分析します。）
- ・その他の調査

【質問・意見】

- アンケートで、「あればいい」と「絶対ほしい」の違いは調査で分かりますか？
- 「こういうものがあったら乗りますか？」という聞き方だと、「乗る」という返答が多い割に、実際は乗らない、ということがあります。ですから、「バスを利用していますか？」など、実態質問や客観的なデータから、読み取って価値判断を探っていきます。
それ以上は、追っかけ調査が重要になります。いきなり乗客は増えません。地道な努力で徐々に増えていくものですから。
- 3, 0 0 0 人の無作為抽出で本当にほしいデータはとれますか？公共交通に一番頼らなければならない子どもやお年よりのデータがとれますか？
- 無作為抽出し、そのデータが少ない（車の利用が多い）と出れば、自ずから方策が見えてくる、という点で、非常に興味を持っています。また、アンケートの精度としては、3 割しか返ってこなかったとしても、信頼度が保てるように 3, 000 人と設定してあります。

(4) 市全体の交通問題の検討について

<検討の思考回路① ターゲットを考える>

例えば、武蔵野市の「ムーバス」は「元気なお年より」をターゲットに考えられました。それを例にとって検討の仕方、資料の使い方を考えてみましょう。

元気なお年よりというとだいたいどのくらいの年齢層でしょうか？また、地域のどのあたりに多く住んでいらっしゃるのでしょうか？そういうことを考えて、企画課の方をお願いして、資料を作ってもらいました。

元気なお年よりというとだいたい「65 歳から 74 歳」を想定して、その年代の方がどのあたりに住んでいるのかの分布図を作っていました。

もう少し上の「後期高齢者」をターゲットにすればどうだろう？と考えると、「75歳以上」の分布図のようになります。誰を対象にするのかで、色分けも変わってきます。またターゲットを考えることにより、方策がずいぶんはっきりしてきます。

<検討の思考回路② ターゲットの移動を考える>

「元気なお年よりがよく行くような施設って何があるかなあ…」と考えて、「集客施設分布図」もつくっていただきました。このほかにもいろいろ考えられると思います。こういった地図だけじゃなく、「どんな乗り物の移動がいいだろうか…」とか、想像力を働かせ、情報をあつめ、データを利用し、検討する。

このような感じで、皆さんも色々な設定を考えながら考えてみてはどうでしょうか。

「全ての人にとって便利で使いやすいもの」、最終的にはそこを目指すわけですが、最初から全部を考えるのは大変困難なことですし、結局訳のわからないままです。一つ一つ設定を考えながら検討してゆくことを提案します。

(5) 今後の協議会のスケジュールについて

今後のスケジュールと主な議題について確認。また、見直しが必要になれば、その都度直していくということで、了承を得る。

(6) 他市町自治体の事例視察について

希望者により視察・試乗に出かける。

行き先

①多治見市コミュニティバス

②西春町巡回タクシー

希望者はどちらかに参加する。参加者は後日視察の報告をしてもらう。